綾瀬市道路反射鏡設置基準

この基準は、綾瀬市が道路管理者として道路反射鏡を設置等する場合において、道路反射鏡の設置等に関して必要な事項を定めることにより、その適正な運用を図り、もって交通の安全に資することを目的とする。

1 定義

道路反射鏡とは、道路法施行令（昭和27年政令第479号）第34条の3の第4項に定める道路付属物のことで、綾瀬市が設置し管理するものをいう。

2 設置基準

道路反射鏡は、自動車の直接目視確認が困難な場合に、自動車同士の衝突防止を目的とし、次に定める場合において、設置することができる。

- (1) 屈折部又は屈曲部において、自動車が安全に走行するために必要な直接目視により見通すことができる距離（以下「視距」という。）が確保できないと認められる場合
- (2) 信号機が設置されていない交差点で、隅切りがなく視距が確保できない又は家屋の塀などにより死角があり視距が確保できないと認められる場合
- (3) 道路の構造・形状等により危険性が高いと認められる場合
- (4) 不特定多数の自動車が市道から公道へ通り抜けできる私道で、(1)から(3)のいずれかの要件を満たす場合

3 設置場所

道路反射鏡は、次の各号のいずれかに設置するものとする。ただし、道路の構造及び交通に支障をきたすおそれがある場合には、当該道路以外の場所（無償で設置することができる場合に限る。）に、道路反射鏡を設置することができる。

- (1) 綾瀬市道
- (2) 県道（市道と交差し、かつ許可が得られた場合のみ。）

4 設置条件

2及び3に該当し、かつ、次に定める条件を満たす要望があった場合は、綾瀬市は道路反射鏡の設置をすることができる。

- (1) 「綾瀬市道路反射鏡設置要望書」（任意様式）の提出があること（自治会等の団体又は近隣住民等7世帯以上の代表者の方からの要望）

(2) 設置要望箇所の近隣住民等による反対が無いこと

(3) 綾瀬市道以外の箇所（私有地にある電柱を含む。）に設置する場合、当該土地所有者の「設置承諾書」（任意様式）があること

5 道路反射鏡の大きさ

鏡面の大きさは、 $\phi 600$ を標準とする。ただし、設置路線が2車線であり、かつセンターラインがある場合には、 $\phi 800$ に変更することができる。

附 則

この基準は、平成21年5月1日から施行する。

附 則

この基準は、平成22年11月1日から施行する。

附 則

この基準は、平成31年4月1日から施行する。

附 則

この基準は、令和6年7月1日から施行する。